

あなたを、守る

地域の暮らしと安全を支える
特別消火隊



▲伊吹山テレビはこちら
(9月4日号)



▲湖北地域消防本部
公式Instagram



湖北地域消防本部 長浜消防署
消防司令補
特別消火隊副隊長

ほった まさる
堀田 勝さん

米原市出身・在住。
「生まれ育った故郷を自分で守りたい」
との思いから消防士を志す。令和8年
4月から特別消火隊副隊長を務める。

表紙撮影：写真サポーター まつい なおかず
松居 直和

インタビュー INTERVIEW

特別消火隊で副隊長を務める堀田さんに、出動時や
普段の勤務について教えていただきました！

常に万全な体制で、出動に備える

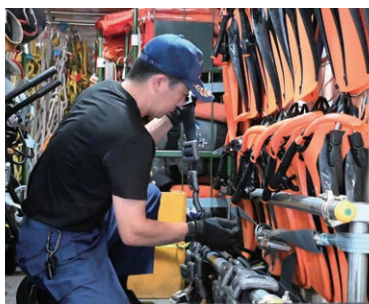
私たちの一日の業務は、消防車両や資機材の点検など、出動準備から始まります。いつ何が起きても万全な体制で出動できるよう、毎日丁寧に時間をかけて行っています。

その後は月間計画に基づいた訓練を実施しているほか、おそらく皆さんが想像されている以上に事務作業もしています。当然ながら災害対応が最優先ですので、出動があれば訓練や事務の途中であっても直ちに現場へ向かいます。

市民からの感謝の言葉が、活動の励みに

特別消火隊は消火の専門部隊として設立されましたが、火災だけではなく、救急隊の活動支援や、車や建物での閉じ込めなどといった救助事案にも出動しています。現場では「トータル被害の軽減」を第一に考えており、そのためにも日々の訓練や研修は欠かせません。時代とともに変わっていく災害に対応するためにも、常に向上心をもって毎日の業務に向き合うことが大切だと思っています。

私たちの仕事は「出動がないほうが平和で良い」と言われますが、火災や事故はなかなかゼロにはなりません。現場では辛いこともありますが、そんな中でも市民の皆さんから感謝の言葉をいただけることは何よりもありがたいことで、私たちの活動が間違いないと感じています。今後も皆さんからのこうした言葉を励みに、業務に取り組んでいきたいと思っています。



▲水難救助車の点検作業



▲ハンゴやロープを使った救助訓練

滋賀県消防操法訓練大会に 伊吹方面隊第1分団第10班が出場しました！

7月12日、東近江市にある滋賀県消防学校の訓練場で、県内各地の消防団員たちが技術を披露する消防操法訓練大会が開催されました。この大会は、地域の消防リーダーとしてまちの安全を守る消防団員たちがポンプ操法技術を磨きあうための大会で、県内各地から全22チームが参加し、訓練の成果を披露します。

今年米原市からポンプ車の部に出場したのは、伊吹方面隊第1分団第10班のメンバーたち。彼らは、日中それぞれの仕事をこなしながら、夜には消防団員として集まり、週に何度も訓練を重ねてきました。

そしていよいよ迎えた大会当日。緊張感に包まれた本番を無事に終え、訓練の成果を出し切った隊員たちは、「たくさんの方の支えがあって、今までの努力を出し切ることができた。大会で得たことを、今後の地域防災に生かしていきたい」と決意を新たにしていました。



令和8年4月、
消火に特化した「特別消火隊」が発足
米原市・長浜市を管轄する湖北地域消防本部管内では、令和7年の1年間で41件の火災、8368件の救急などに出動しています。
数多くの災害に対応し、私たちの暮らしと安全を支え続けてくれている湖北地域消防本部では、令和8年4月、更なる消防力向上を目指すため、近年増え続けている、通常の消火活動では対応困難な特殊火災※にも対応できる、消火技術に特化した部隊「特別消火隊」が発足しました。
※爆発現象を伴う火災や、大量の収容物のある倉庫火災などを指す

特別消火隊が使用する消防車両「化学車」には、油火災に有効な消火薬剤や、毎分最大2トンもの放水が可能な放水銃など、特殊火災に対応するための様々な装備が搭載されています。
隊員たちはいつ起こるか分からない災害に備えるため、こうした機材などを用いた訓練に日々励んでいます。

※写真は長浜消防署訓練所にて撮影

